

平成 25 年度における経営協議会学外委員からの 意見を踏まえた法人運営の改善について

○ 平成 25 年 5 月 24 日 第 1 回経営協議会における意見

法人化後に、一橋講堂等の施設を新たに抱えることになったが、建替え等の施設整備計画を自ら考え等を行う必要がある。学生寮についても同様で、厚生施設であることから寮費等が低廉に抑えられてきたが、法人である大学が運営するのであれば、公平性や平等性の観点から、大学側がポリシーを示す必要があるのではないか。

〈 対応 〉

一橋講堂については、原則として一橋講堂の収入をもって管理運営を行うこととし、大学と予算を区分して経理している。

一橋講堂等の施設整備については、大規模な改修や設備更新は、国からの施設整備費による支援を基本とし、軽微な修繕を含む一般的な運営経費については、一橋講堂の収入の中で賄うこととしている。

学生宿舎の寄宿料については、将来の改築や大規模改修等を見据えた寄宿料の改定を行う必要性は認識しており、今後、学生・保護者の経済的負担等を考慮しつつ検討を行うこととしている。

なお、入居者の利便性（家具・什器等設備完備）と流動性を高めるという新しいコンセプトのもと、交換留学生やサマープログラム等受講留学生を入居対象としたワンルームタイプの施設として平成 25 年 10 月竣工した国際学生館景明館の使用料については、部屋の形態や近隣相場等を考慮し、これまでの学生寮の算定とは異なる方法により使用料の設定を行った。

○ 平成 25 年 11 月 15 日 第 4 回経営協議会における意見

一橋講堂の予約システムが古く使いにくい。サーバ等はメンテナンスしてもすぐ陳腐化するので、クラウドなどを導入し、利便性を向上していただきたい。

〈 対応 〉

平成 26 年 3 月を目途に、会議室の空き状況の検索画面を全面的に見直すとともに、予約の変更や備品の貸出等についても、システム上で行えるようカスタマイズすることとしている。

なお、平成 26 年 2 月に一橋講堂利用案内のホームページをリニューアルし、会議室利用者等の利便性の向上を図ったところである。

大学として国際化やグローバル化を前面に押し立てている割には、大学概要等から大学の変化の状況を読み取ることができない。大学が変化するダイナミズムをアピールする冊子等を作る必要があるのではないか。また、外国人留学生の獲得増のため、グローバルな広報活動等を展開してはどうか。

〈対応〉

『一橋大学概要』では、大学の基本情報を掲載しているとともに、以下の様々なツールにより、戦略的な広報活動に取り組むこととしている。

○『HQ』(Hitotsubashi Quarterly)』

大学広報誌『HQ』(Hitotsubashi Quarterly) (平成15年より年4回刊行)では、多様なテーマで本学の変化の状況や教育研究の取組等について広報を行っている。『一橋大学概要』と同様、英語版も発行しており、新規学術交流協定校の開拓や海外での留学フェア等で使用するなど、海外に向けて本学をアピールしている。

○『一橋大学 by AERA』

本学の魅力を広く社会に認知してもらうため、朝日新聞出版 AERA 編集部と協力して、本年3月『一橋大学 by AERA』を刊行した。これは、「中期計画」に掲げる「国内知名度の向上を目指した情報発信力の強化」の具体的な施策の一つであり、本学教員からの社会に対する提言、グローバル教育、ゼミナール、キャリア支援、キャンパスの最新事情などを取材記事によって構成し、本学の魅力を紹介している。

本冊子の情報を海外にも伝えるため、『一橋大学 by AERA』の掲載記事の中から国際的にアピールできる要素を抜粋し、英語、中国語、韓国語の3言語で構成する、『一橋大学 by AERA』の多言語版を、平成26年度前半までに発行、配布開始する予定である。

○大学ウェブサイト

海外から本学の情報を収集する上で重要なツールである英語版ウェブサイトのリニューアルを本年3月までに行うこととした。海外にいる日本又は本学への留学希望者や研究者等が、それぞれの目指す情報にワン・クリックで到達できるよう、トップページのグランドメニューバーを改良するなど利便性の向上を図った。また、イベント・ニュースの更新をできるだけ早く行うなど、ウェブサイト全体の活性化に向けて取り組むこととしている。

○中国語版 SNS「Weibo」

中国に向けて本学の情報を発信するため、今年度から中国語版の SNS である「Weibo」を開始しており、フォロワー数も順調に増えている。ユーザーの年齢層としては、若者(18~24歳)が74.5%(本年1月31日現在)を占めており、受験世代に対してアピールできている。